

平成 30 年 第3回(9月)
粕屋町議会定例会

町長所信表明



粕 屋 町

1. はじめに

平成 30 年第3回粕屋町議会定例会の開催中にも関わらず、町政運営に関する所信を申し上げる機会をいただき、誠にありがとうございます。

私は、9月9日に執り行われた粕屋町長選挙において、町民の皆様の温かいご支援と、多くのご支持をいただき、第8代の粕屋町長に就任させていただきました。この上ない光栄でありますとともに、愛する粕屋の未来を担う職責の重さに身が引き締まる思いでございます。粕屋町を取り巻く課題は山積みしておりますが、これまでの副町長職を含む 37 年間の行政経験を活かし、誠実で丁寧に、かつスピード感をもって、「住みたい、住み続けたい」と思ってもらえるまちづくりに全力で取り組んでまいります。

2. 町政運営に関する所信

私は立候補するにあたり、4つの公約を掲げました。以下、その一端を述べさせていただきます。

1つ目は、「子育てしやすいまちづくり」です。

町内の待機児童を解消するため、必要となる保育の受け皿拡大に取り組めます。また、老朽化が進む町立保育所は、まずは改修、整備を行う必要があると考えております。建て替え等の問題は、財源的な課題を含め、調査・検討してまいりたいと思います。

副町長在任中、子育て支援の拠点として、かすやこども館の建設に取り組みましたが、出生率が高く、子育て世代が多い本町において、子育て環境のさらなる充実と整備を行い、子育てしやすいまちづくりを目指します。

2つ目は、「住みやすいまちづくり」です。

地域の実情に応じて、多様な主体が参画し、地域で支えあう、住民目線、住民主体の介護予防生活支援事業の充実を行います。

現在、本町にございます、ふれあいバスをはじめとした地域公共交通は、子どもや車を運転しない高齢者の方にとって生活に必要な移動手段です。行政、地域住民、交通事業者が協力して町に最適な全体像を描き、地域公共交通も道路や上下水道と同じ暮らしを支える社会基盤施設の一つとして再構築を行います。

公共施設の段差の解消などバリアフリー化を推進し、バス停などにベンチを設置するなど、高齢者や障がい者、妊婦や乳幼児連れの方々にも、快適で住みやすいまちづくりを目指します。

3つ目は、「誇れるまちづくり」です。

我が国においては、本格的な人口減少時代を迎え、国を挙げ人口減少・少子高齢化対策に取り組んでいる一方で、本町は今年の人動態調査においても、町村の部で人口増加数が1位になるなど、2025年の国勢調査

においては市制の要件である、人口5万人を超えると思われま

将来の市制施行を見据え、教育・子育て・福祉行政の充実、農業政策や商工業の振興など、自立した都市基盤の整備に取り組みます。

新たに住民となられた方々や、これから粕屋で生まれ、育つ子どもたちが、「これからも粕屋に住み続けたい」と思えるような、「シビックプライドの醸成」(地域の問題解決に取り組む郷土愛の精神を育むこと)に取り組み、まちのランドマークである駕与丁公園の整備、町民花火大会の開催など、**誇れるまちづくり**を目指します。

4つ目は、「**安心して生活できるまちづくり**」です。

近年は異常気象とも言われるような猛暑や豪雨により、土砂災害、河川の氾濫、落雷など、これまでの常識を覆す災害が身近に発生しています。

県内にも大雨特別警報が発表され、西日本を中心に甚大な災害を引き起こした「平成30年7月豪雨」は記憶に新しいところです。本町においても、重要河川の監視体制の充実や、ため池などの内水面の整備は急務です。

また、行政と地域が一緒に連携して「協働する」ことが真に災害に強いまちづくりを実践し、継続していくためには必要です。地域で助け合う自主防災組織の連携による地域防災ネットワークの構築推進や、町民あがての「防災の日」を制定することで、防災意識の啓発に取り組み、**安心して生活できるまちづくり**を目指します。

3. 結びに

私は、粕屋の明るい未来に向けて、国や県、福岡都市圏を構成する市町としっかりと連携し、町民の皆様、議員の皆様、そして職員と、対話を通じた信頼関係を築き、絆を結ぶことによって、これまで以上に地域の力を結集し、ともにまちづくりを進めてまいります。何卒ご指導、ご鞭撻を賜りますようよろしくお願いいたします。

以上、所信の一端を述べさせていただき、所信表明とさせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

平成 30 年9月 13 日

粕屋町長 箱 田 彰